

高知くらしの護身術

377

プリペイドカード

購入指示する詐欺も

(2015年12月8日掲載原稿)

プリペイドカードは、使いすぎを防ぎたいときや、音楽・ゲームなどのダウンロードコンテンツを購入するときなどに利用できる便利な決済手段です。

プリペイドカードには、大きく分けて2種類あります。

一つはプリペイドカードの残高が、券面に記載されているものや、カードに埋め込まれた磁気やICチップに直接記録されているものです。

もう一つは、いわゆる「サーバ型」。プリペイドカードの発行会社が管理するサーバに価値(金額)が記録されるものです。

「サーバ型」の場合、物理的にカードが発行されるとは限らず、カードに記載された番号などをインターネットで入力することで使用できるものがあります。

しかし最近、アダルトサイトや出会い系サイトなどのサイト業者にプリペイドカードの購入を指示され、高額な料金を支払ってしまったという相談がありました。

カードの購入を指示する業者は、金融機関の口座を持っていない、審査が通らないためクレジットカード会社やプリペイドカード会社の加盟店になれないなど、詐欺業者である可能性が高いと考えられます。

詐欺業者は、消費者からプリペイドカードに記載されている番号などを取得した後、すぐに使ってしまう。消費者がだまされたことに気づいた後には、カードに価値が残っていないことがほとんどです。

こういった詐欺業者はトラブル発生後に連絡が取れなくなることが多く、交渉して返金を求めることは困難です。

プリペイドカードの番号を伝えることは、カード自体を業者に譲ってしまうことと同じです。絶対に行わないようにしましょう。